

挑もう!! いのちとくらしの護り手として —憲法を守り 綱領を实践する看護・介護—

未来を予測する最も良い方法は
未来を創り出すことである デニス・ガボール



- ☆歴史を受け継ぎ発展させる1人として
知り、学び、活かし、広める
- ☆いのち、暮らしを脅かす諸要因
- ☆人間の尊厳を担保する平和
- ☆誰もが尊厳を全うして生きる権利
- ☆生活行動支援は看護・介護の座標軸
- ☆危機を転じて未来展望の契機に
- ☆平和を守り綱領を实践する挑戦者として

歴史から学び歴史を創る

明治維新後 欧米列強とならぶ近代国家体制の建設のため
富国強兵政策のもと軍隊（皇軍）を整備し
海外派兵を含む諸政策を推進した日本政府

兵力確保第一義 → 重工業育成政策 → 低賃金労働者
国家の方針に異を唱える者 → 治安維持法により排除
軍事的要請からの看護師養成 → 自己犠牲を最大の美德に
日清、日露戦役を経て 日中戦争、太平洋戦争に突入



無産者診療所 → 劣悪労働条件の工場労働者、弾圧犠牲者と家族
（工場塵埃・過労からの肺病、頻々の負傷、神経衰弱、脚気、種々の疫病）
皇軍兵士の救護活動 → 身命を賭して戦場に赴いた赤十字看護師
（傷病者を看護することは国家に対する義務である → 多くの殉職者）

源流-いのちと暮らしの護り手

民医連の源流 大崎無産者診療所

逆流の中の先人の献身に学び
闘志を受け継ぐ



世界大恐慌の嵐 → 昭和恐慌
日本の失業者50万人（政府）
労働争議戦前最高
農村の疲弊は深刻化
治安維持法による大弾圧



差別のない平等な医療目ざして

大栗所長と橋爪医師、看護師4人で、朝8時から夜9時まで
3.15事件 4.16事件の大弾圧の保釈出獄者 犠牲者の家族
劣悪労働条件で働かされていた工場労働者らが1日80~100人
診療の傍ら、身の上相談、生活相談、その他あらゆる活動
治療費の払えない患者も多く、経営は困難を極めた模様。

1931から大崎、亀有、千葉県北部、新潟の無産者診療所で働いた
野口わかの手記より 医療文芸集団編 「白の青春」

組織的看護婦養成開始
一八八五



救護看護婦養成開始

日清戦争1894



50年間は戦争だった

第一次大戦

敗戦1945

15年戦争

少子高齢社会・高度医療技術

介護福祉士誕生

在宅ケア 退院調整

高等教育 クリニカルパス・リスクマネジメント・EBN・NBN

特定能力研修制度 タスクシフト・シェア

戦後改革

保助看法



いのち、暮らしを脅かす要因

健康障害

自然災害

感染症のパンデミック

最大・最悪の破壊要因 → **戦争**

全ての要因に直面している今だからこそ、
私達に何ができるかが真剣に問われている

戦争の不条理



「別れの乳房」中澤弘光 作



お乳が張ったので妙子のこと
思い出しました。どんな
ことがあっても元気で帰ら
なければ...貴方も待ってい
て下さいね。 諏訪とし

s.14.3 応召、8通の手紙を
書き、5.30殉職
夫s.16応召 19.9病死

日中、太平洋戦
960班33,000人応召
1120人殉職

安保法制のもと、
自衛隊法103条で民間医療機関
及び、医師、看護師などの医療
従事者が徴用されることも。
傷病兵を生み出す事態を阻止し
一般国民の医療体制の崩壊に
通じる道は決して許すまい。

命どろ宝



丸木位里・俊 普及版完本原爆の図



本土大空襲 沖縄戦 広島・長崎原爆投下
民間の犠牲者 80万人

敗戦・引き揚げ後の苦しい生活



にわか農家の両親の苦勞
むかごの粥にたくあん2切れ

戦中の校風そのままの高等女学校
理不尽な校則、慣行に戸惑う日々

新憲法発布：空腹の中の解放感

1946年11月3日 日本国憲法発布

新しい社会科の授業開始 1 日目

主権在民 天皇は元首ではなくなった

恒久的平和主義 戦争放棄と戦力を保持しない

基本的人権 個人として尊重される権利

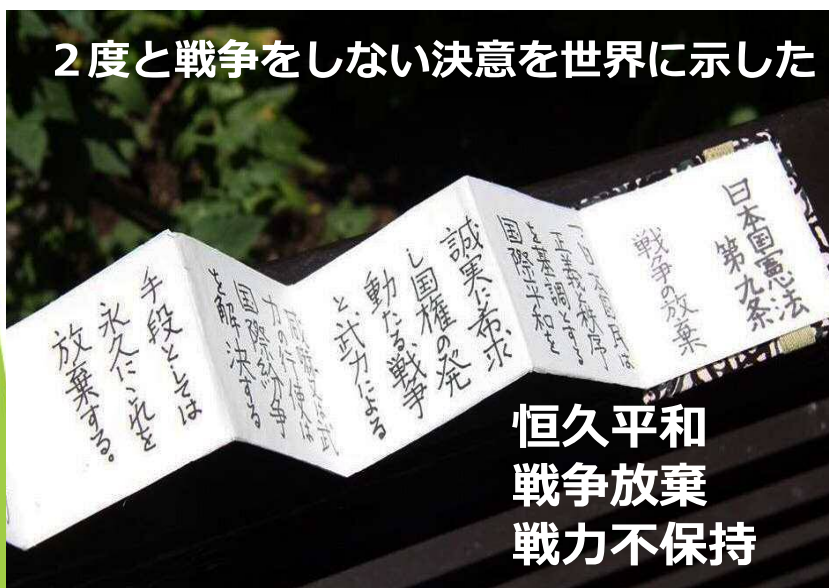
小学校時代から丸暗記の勅語に浸っていた
軍国少女たちには想像できないことばかり。

「永久に日本は戦争をしない国？」

信じられない思いと解放感の記憶

不戦の誓いを継承・発展 世界平和を日本国憲法9条で

2度と戦争をしない決意を世界に示した



恒久平和
戦争放棄
戦力不保持

日本国民が全世界の国民とともに、恒久平和主義の憲法原理に立脚し、平和に生きる権利（平和的生存権）の実現を目指す意義は依然として極めて大きく重要

いのちは ひとりに ひとつ
たったひとつの おもたい いのちだから

だから ぜったいに ころしたらいけない
ころされたらいけない

ぶきなんかいない



へいわって ぼくがうまれて よかったということ
きみがうまれてよかったということ

そしてね きみとぼくとは ともだちになれるということ



日・中・韓平和絵本 浜田桂子より

人間の尊厳を担保する平和

限りある寿命を全うして死ぬ
それが人間の尊厳というもの

戦争は、未来ある生命を容赦なく殺す
太平洋戦争での死者 310万余（日本）
世界人口の2.5%約8000万の尊いいのちと
人々の暮らしが奪われた

尊厳ある生の基本は平和あってこそ
戦争も災害もパンデミックも
尊厳ある生命のために人智を駆使して防がなければ

人間の尊厳とは

かけがえのない存在である個人
存在そのものが尊厳である。

人間が人間らしく在ること

ごく普通の日常的な営みを自分らしく送ること
ができて生きていること

尊厳ある生を全うする権利を守る



限りなく生活の至便さをもたらした現代社会

生命の大切さを感じる心が

失われつつあるのではないか

人間以外のいきものとの共存を

忘れていないのではないか

尊厳ある生を全うして死を迎える権利は

すべての人にある

誰もが 生まれて生きてよかった生を

生きぬくためにこそ

現代医療・看護はその知と技術を

駆使する必要がある



現代の知と技術を駆使して

誰もが何時かは迎える死の瞬間まで
人間らしく自分らしく生きたいと願う
尊厳ある生を全うして死を迎える権利は平等
生命を尊重し守ることを使命とする医療者にとって
殺人を合法化し、最悪の人権侵害をする戦争は
最大の「敵」であるといえよう

誰もが 生まれて生きてよかった生を生き抜くためにこそ
現代医療.看護.介護はその知と技術を駆使する必要がある

生きる権利－生存権の保障

全ての人間が生まれながらにして持っている権利
人間が人間として生きて行く上で
社会の他の人々との間で
相互に決して侵してはならない権利

憲法25条

すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を
営む権利を有する。

② 国は、すべての生活部面について、
社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に
努めなければならない。

看護と介護の協働

暮らしを整え人間らしく生きていくことを目指し

機械依存の医療・看護からの脱皮
自然の回復過程を整え
癒し 癒されるケアの可能性

価値観の転換と意識の変革で人間中心の医療・福祉に変えよう

手のケアへの回帰 TE-ARTE の思想と実践

平和な国と社会保障の充実は尊厳維持のかなめ

看護・介護は社会保障の大きな枝の1つ

COVID-19が浮き彫りにした 人権と尊厳への脅かし

非正規雇用 生活困窮者 格差拡大

医療提供体制、公衆衛生対応力の弱体化

→ 誰もが人間らしく生きて

文化的な生活を送る権利

社会保障切り捨て 軍備拡張

経済最優先 効率性に価値をおく政策

いのちの平等が危ぶまれた医療崩壊

誰もが未知の事象に直面し、試行錯誤で乗り切った
ゴール不明な状況下で達成感が得られず疲労困憊も
実態と倫理感の相克

入院患者のトリアージ（いのちの選別）

受け入れベッド数（看護要員を含む）不足

入院必要者の自宅療養という名の待機

救急車滞在時間延長で多数の症状悪化例

オリ・パラ強行による感染者増の5波は

「さながら地獄であった」と看護師

7波での死者急増

救えるいのちが救えなかった事実

コロナ危機を未来展望の契機に

一般的感染防止－3密を図り新生活様式普及

「距離を隔て」「向き合わず」「触れず、話さず」

看護の柱は

「そばにいて」「見つめ、よく聴き」「触れる」

次なる波に備えての看護の課題

隔離された医療環境のもと、感染防止策を講じ
ながらの直接ケアのありようを探る

専門的知識と経験知をドッキング

感染を防ぎながら触れる方法

離れていても心の距離を短縮させる方法

心を伝える手 心の手を働かせること

歴史に学ぶ感染管理(F.ナイチンゲール)

唯一の防禦策は、清潔さ、新鮮な空気、そして患者への絶え間ない気遣いである。

懸命で思いやりのある患者管理こそが感染に対する最善の防止策である。

自然の回復過程に働きかける

宿主の自然免疫力を高める → 感染・発症予防

食べる、出す、眠る、身体をきれいにする...

生活様式よりも生活習慣を整える → セルフケア

ストレスマネジメント 高齢者のフレイル予防

呼吸器症状緩和ケア

人工呼吸器・エクモと併行して可能な看護独自の方法

腹臥位により下側肺の酸素化促進 → ポジショニング

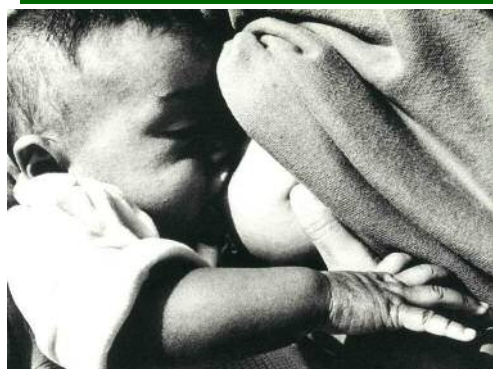
熱布バックケアによる深呼吸促進と分泌物の排出

両者を組み合わせたワンセットケア

看護ケアの多彩・レベルの多様



ケアの原点・平和の原点

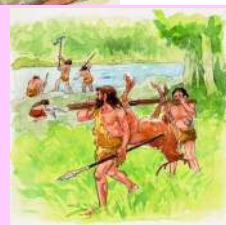


平和を守り抜くことは
人間の生きることへの
保障であり
より良い看護の実践は
平和であってこそ
達成可能な課題である

生命を育む母の全人的ケア
にとっても至福のひとつ
→ 子から母へのケア
ケアの双方向性
無条件の愛
信頼の相互作用

人間の歴史・人間の本質－ケアの創まり

前足を手に解放した人間は
手を用いて道具をつくり狩りを
自分の飢えを防ぐだけではない
自分以外の仲間のために
草木の芽や実を採取



共同生活をする仲間たち
の生存に必要な食材を
猛獣に噛まれた傷を洗い
川原の石で腹部を温めた

誰かの何かの役に立つ存在としての人間の本質

生命を維持・継続する日常的習慣的ケア

人々の暮らしの中から生まれたケアの心とわが
疾病構造の変化、高齢者人口の増加等により
ケアの専門家としての看護師・介護職者が誕生したが
ケアは看護師・介護職者の独占物ではない

病人、高齢者、幼い人への愛と思いやりを基礎に
暮らしの中で展開され今もなお続いている

時、ところが変わっても、基本となる本質は変わらず

日常的習慣的ケア－生活行動の価値づけ

ありふれていて常時意識しない営みだが
その習慣が崩されたり継続できなくなったら－
衣類の着脱が自由に出来なくなったら
美味しく食べられなくなったら
自分の意志で排泄がコントロールできなくなったら
朝の目覚めが連日よくなかったら
行きたい時に行きたい場所に行けなかったら
病気そのものの症状以上の苦痛になる
まさに生活行動援助は看護の座標軸なのです

生活行動援助実践の倫理

まさか、虐待など...

熱中症で脱水状態-意識レベル低下で救急搬送
輸液、拘束衣、オムツ
脱水状態改善、意識鮮明になった
夕食配膳の看護師に
「食事の前にトイレに行きたいのです。起こして下さい」
「オムツの中にどうぞ」

法的には保助看法違反 倫理的には虐待に通じる

生活行動援助がもたらす治癒

機械化・自動化されていない領域のケア
身体に手を当てて行う気持ちよい→ 安楽ケア
決まりきった習慣を保つ → 気分・身体リズム
身体の清潔、身だしなみを調える → すっきり気分
きちんと起きて姿勢を調える → 意識もはっきり
気持ちよさ(安楽) → 副交感神経優位 免疫力

コミュニケーションの身体チャンネルを開放
患者の人格が応答し、学習を助成する好機
(専門職が直接行う意義)

暮らしを支援する活動

◎ ふつうの暮らしの回復

それぞれの家族構成での固有の人間関係の積み重ね
地域の歴史と文化の中で醸成された多様化

◎ あたたかなコミュニティの創設

多世代交流の場と機会

子育ての親を支え、認知症高齢者を自然に見守る
顔の見えるコミュニティ

求められる優れた看護・介護

- ◎ 多重課題に絶えず直面しながら
- ◎ 一定の時間内に猶予なく処理しなければならない
事柄の過密さ



だからできないのではなく
「どうすればできるか！」

個人のレジリエンスと同僚間の討論で



優れた看護・介護の実践 → 患者・利用者のQOL
看護師・介護職者のアイデンティティ

202歳のナイチンゲールとの対話



看護とは？

☆職業としての看護は、人々の生活の営みの中で展開される業であり、日常の＜小さなこまごましたこと＞から成り立っていて、その中で高度の優秀性が要求される。

☆病院看護も家庭看護も「自然の回復過程を中断せずに生命力の消耗を最少にするよう整えること」

看護は犠牲的行為であってはなりません。

人生の最高の喜びの一つであるべきです。

◎ 犠牲なき献身こそ真の奉仕

目ざそう働く喜び改革－看護師自身の人権

医療労働は「人間の生きる権利を保障するサービス労働」
人間の生きる営みは個別性、日常的、習慣的、効率性には馴染まない。
限られた人員で能力以上の仕事を定常化したら、長時間労働は必須
心身疲労の蓄積から健康問題に波及、働く意欲もすり減ってしまう
職場内の空気、人間関係もぎすぎすして、ストレスフルな環境になる

国の働き方改革 → 生産性の向上 → 働かせ方改革

労働者目線と患者の必要から

1日8時間を専門職労働者としてどのように働くか

「働く喜び」「仕事への誇り」を実感できる改革を

看護・介護の営みと価値

有史以来、人間のもっとも基本的な営みの1つ
そこに人間がいる限り、何時の時代にも、
何処の国にも人を気遣い世話をする行為は存在してきた。
いのちを維持・継続する日常的、習慣的ケアは
暮らしの中で展開され、病人、高齢者、若い人への
愛と思いやりを基礎にして今もなお継続。
疾病構造の変化、医療技術の進歩、医療制度の変遷のもとでも、
専門職の基本的理念は変わらない。

看護・介護は研究にあたいをすることを再確認し
ケアレベルの向上と専門職としてのアイデンティティのために
全ての看護・介護職者の研鑽と研究の必要性

実践の蓄積を知にして保存

経験の意識化

経験を語る

経験を記述する－事例検討 →ナースステーション の文化

場面の再現

体験の共有

映像化(イメージ化)して保存

関わった人

できごと 時間の流れ

看護・介護現場は仮説の宝庫

日々の人間の営み

社会的諸事象を反映した患者像・家族関係

ケアを介しての相互作用の中での疑問、発見

☆看・介活動研究交流集会の強み

民医連綱領の具体化を目ざし

共通言語で

病棟、外来、地域、福祉施設等の広範な領域での

多面・多彩な実践の交流

討論、相互評価、学びの共有

綱領の思想を可視化させるのはあなた自身

日常のベッドサイドで、外来看護場面で

在宅で、高齢者施設での実践を通して

疑問、問題解決を図るプロセスで得た教訓

他の場面での試行錯誤の実証を反復

実践の言語化 → 記録し事例にまとめ検討し集積

蓄積された各院所の報告を分析、分類、カテゴライズ

◎ 民医連独自の看護・介護のレベルアップ

◎ 全国の看護・介護現場に普及 → 実践面

現場からの問題意識を仮説にした検証 → 理論化へ

看護理論は

実践に対する確信と看護の将来に見通しを与え

全体を知ることによって部分を知り-

部分を知ることによって全体を- 見ることが可能

創造力 正しい判断力

ものごとをえぐり出す力

抽象する力

看護の質に影響する力

看護理論に求められること

抽象的、普遍的ではあるが、ものごとの本質を反映しているという意味で、看護の現実の世界に即したものの、実践の指針、すなわち質の高い実践に一步を踏み出す力を与えてくれる理論

看護実践は、看護理論にうらづけられ
経験知により実証されて
看護を必要としている個人ならびに
個人をとりまくあらゆる事象に対して
有用な力を発揮する

感染防止策の鎧の陰の動きに敏感に

＜戦争前夜の空気と共通の兆し＞

☆ 学術会議任命拒否は言論統制(表現の自由)と思想(心の自由)弾圧

☆ 史上最高の防衛予算5兆3千4百億円 → 更に倍增計画

＜国民の安全への脅かし＞

海外での武力行使容認に通じる反撃能力 → 平和憲法なし崩し

＜人間の尊厳の脅かし＞

米軍辺野古基地の埋め立て 新基地容認は国全体を米軍支配下に

＜環境汚染・破壊に通じる諸政策＞

核兵器禁止条約を批准せず、国内原発再稼働、新增設へ

福島第一原発汚染水の処理をめぐる問題未解決

批判や抗議は自粛しない コロナ禍だからこそ人権意識を

戦争に道ひらく悪法と膨大な軍事予算 NO!

秘密保護法
集団的自衛権
安保法制
共謀罪(組織犯罪処罰法)⇒人権抑圧と思想弾圧
重要土地利用規制法
経済安保推進法

防衛予算に名を借りた大軍拡予算

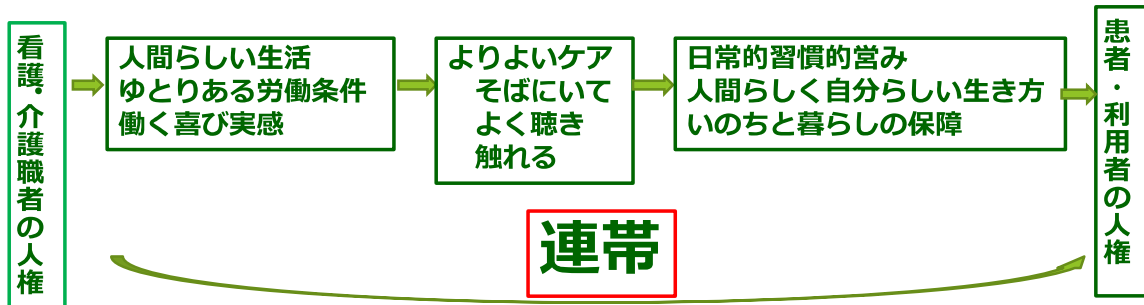
バイデン大統領と約束
トマホーク500発購入
軍事演習1日10億円

軍事費なくして

コロナ感染対策 物価高への緊急具体的対応

学び、知り、広げ、挑戦しよう、平和と暮らしを守り抜く

いのちと暮らしを守る私たち



平和こそ力

憲法9条を守りぬき軍備を持たない戦争をしない国に

人権を脅かすあらゆる悪法反対

沖縄始め全国土から米軍基地の撤退を

看護・介護は社会保障のかなめ → いのちと暮らしを守るための職場環境

科学的・大胆な労働条件改善の要求は国民の権利にも!

平和を守り抜く看護・介護職者として
求められる主体性と自発的行動

いのちと暮らしを守る専門職として
ありふれた営みの真価の追求

生まれて生きてよかったいのちを
誰もが安心して生き抜くことを保障する

人間の尊厳は平和あってこそ
脅かす徴候を敏感にキャッチし闘う

歴史の継承と創造、豊かな未来へのチャレンジャー

民医連で働くあなたへ

平和と人権保障のために憲法を守り抜き、
綱領の掲げる目標をそれぞれの立場で
主体的に科学的に追求し実践、普及することが
人々の尊厳あるいのちと暮らしの実現に通じる道です。
山積する課題を1つ1つ乗り越えましょう。

“困難は私のハードル、乗り越えた喜びは私のもの”

「明るい未来を創るのは今を生きている私たち」だから



ご静聴ありがとうございました